

2学期が終了しました。

文責 学校長



～令和4年を振り返って～

1 新型コロナウイルス3年目、まだまだwithコロナの生活が続きます。

平和の祭典である「北京オリンピック・パラリンピック」で華やかに始まるも、2月24日(木)にロシアのウクライナ侵攻が始まり、第3次世界大戦の懸念も払拭されず、解決の糸口も見えないまま、令和4年が終わろうとしています。また、新型コロナウイルス感染拡大も3年目でもなかなか収束に向かわないまま、日本も「With コロナ」の社会体制・経済活動に舵を切り、様々な行事やイベントも実施され始めた1年でした。本校においては、文化祭も体育祭も、そして修学旅行も感染防止策を取りながら何とか実施することができました。先生方、生徒諸君のご協力に感謝申し上げます。ただ、この間に感染、あるいは濃厚接触者として出席停止、自宅待機を余儀なくされ、参加できなかった先生・生徒も出てしまったことは、コロナ禍での学校運営の難しさを改めて痛感させられた1年でした。そんな中、県総体、県総文祭、続く九州大会、全国総体、国体、全国総文祭、全九州総文祭や様々な全国コンクール・イベントでの生徒諸君の活躍は見事で喜ばしいことでした。かつて、高校野球で一時代を築いた徳島県立池田高校の**蔦文也監督**の有名な名言「**山間の町の子供達に一度でいいから、大海(甲子園)をみせてやりたかったんじゃ**」の言葉がありますが、母校の後輩である生徒諸君に少しでも広い世界に挑戦し、広い世界を経験してほしいと願ってきました。この一年、広い世界を経験した人は、その経験を人生の財産としてほしいと思いますし、まだ広い世界を経験することができていない人には、来年こそは広い世界に挑戦する自分へと深化してほしいと思っています。部活動は夏以降、新チームにバトンが渡され1・2年生による新チームがスタートし、それぞれの部で活躍し始め、令和5年も、今年以上の活躍が期待できそうです。1・2年生諸君には、本業である学業にも更に真剣に取り組みつつ、部活動や生徒会活動、校外体験活動にも今年以上に励む年になることを願っています。

いよいよ年が明ければ、進学を目指す3年生にとっては、「**大学入学共通テスト**」が控えています。コロナ・インフルエンザ両感染症予防のために最大限の配慮をし、食事と睡眠を十分にとりながら勝負の日を迎えてほしいと思います。1・2年生も「**3年生のために・受験生のために**」を合い言葉に感染症予防策を最大限心がけて年末年始を過ごしてください。第8波もこの年末年始の移動でさらなる感染拡大が懸念されます。コロナ禍も4年目を迎えることになりそうです。引き続き、**手洗い・うがい・マスクの装着**の徹底をよろしくをお願いします。

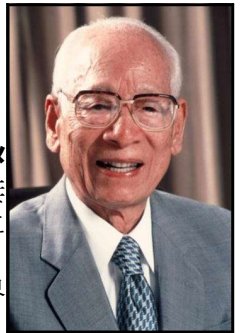
2 全九州総文祭の放送部門で優良賞。剣道選抜大会県予選で男子団体ベスト8に。

12月11日(日)まで佐賀県で開催されていた「第6回全九州総合文化祭」の放送コンテストのアナウンス部門で本校放送部の**山田彩香**さん(2-5)が**優良賞**に輝きました。また、12月18日(日)に行われた「剣道選抜大会佐賀県予選」で**剣道部男子**が団体で**ベスト8**に入りました。

3 今週の名言・・・安藤百福の言葉です。

事業を始めるとき、金儲けをしようという気持ちはなかった。何か世の中を明るくする仕事は無いかと、そればかり考えていた。

【解説】2018年から19年のNHKの朝ドラ「まんぷく」は、コロナ禍前の連ドラで、「**チキンラーメン**」や「**カップヌードル**」など**インスタントラーメン**を世界で初めて開発した**日清食品**の創業者・**安藤百福**と妻をモデルとした物語でした。その**安藤百福**氏の言葉です。今やインスタントラーメンはアジアを中心に世界中で人気の食べ物で、貧しくて飢える人を減らし、また人の食べ物の楽しみ方を増やしました。日清食品創業者の安藤は、インスタントラーメンやカップヌードルの製法を特許でしぼることなく、世界中で広まることを望んだ人です。まさに世界を明るくした日本ビジネスマンの鑑のような人です。今や、一人当たりの消費量世界一の韓国のインスタントラーメンも、安藤の考えを汲んだ別の日本メーカーの社長が、無償で韓国の三養食品の創業者に教えたことから始まりました。そして中国でも、インドネシアでも、タイでもその国を代表するラーメンが生まれ、世の中を明るくしてきました。その始まりは安藤の人生を懸けた挑戦物語がスタートでした。この言葉のように「世の中のために」という昭和の偉人の思いを平成・令和の時代に生きる我々も受け継ぎたいものです。



4 今週のお話成語・・・「千載一遇」【問題】英語で表現すると？

滅多に訪れそうもないよい機会。二度と来ないかもしれないほど恵まれた状態。

(出典：『文選』王褒「四子講徳論」より)

【由来】千年に一度出会う、めったにないよい機会。絶好のチャンス。出典は晋の袁宏(四世紀の人)の文。「千載一遇は賢智の嘉会、之に遇うは欣び無き能わず(千年に一度出会うような賢人たちの集まりは、喜ばしい限り)」とある。これと似た表現として、「**千載一会**(せんざいいっかい)」「**千載一時**(せんざいいちじ)」などがある。「載」は、歳や年と同じ。もともとは、めったにない出会いに用いたものだが、日常では、思いがけないチャンスに恵まれた時などに、大げさに用いる。例えば、なりたと思っていた役職のポストがちょうど空いた時とか、なかなか会えない人が向こうからやって来た時など、「千載一遇」のチャンスだ。



5 入試によく出る漢字(その62)・・・九州大学(2017年度入試)に挑戦!

- (1)「臨場感」などは、その**テンケイ**であったと言えよう。
- (2)相手の「**キンセン**に触れる」といったこともある。
- (3)日常の中にも**ヒソソ**んでいる。
- (4)さりげない毎日から普遍的に**チュウシュツ**され得る。
- (5)一方で**ジュンスイ**にモノについての技術革新もめざましく。
- (6)「恥をかく」という表現は**アイマイ**で。
- (7)辛うじて自分を**ナグサ**めて来たからである。
- (8)自己主張をしないことが**カシコイ**処世術だったのである。
- (9)身分制度という**チツジョ**の中で。(10)江戸時代には**ゴウショウ**といえど、あまりに目立つ派手な存在となれば。

6 今週の一冊・・・三浦しをんの『舟を編む』(光文社文庫)です。

出版社の営業部員・馬締光也は、言葉への鋭いセンスを買われ、辞書編集部に引き抜かれた。新しい辞書『大渡海』の完成に向け、彼と編集部の面々の長い長い旅が始まる。定年間近のベテラン編集者。日本語研究に人生を捧げる老学者。辞書作りに情熱を持ち始める同僚たち。そして馬締がついに会った運命の女性。不器用な人々の思いが胸を打つ本屋大賞受賞作! (参考：本書裏表紙説明より)



【解説】「久しぶりに読了後に涙がこぼれてくる小説に出会ったなあ。」そんな小説を紹介します。今回は、2012年の本屋大賞受賞作である『舟を編む』を紹介します。もう十年前の作品ですが、累計で100万部を突破するほど多くの人に読まれた作品で、諸君の中にも読んだ人がいるかもしれません。辞書編纂という特異な世界を丁寧に描いてあり、主人公・馬締(まじめ)君と下宿の大家の孫娘で板前修行中の香具矢(かぐや)さんとの、それこそ「まじめ」な恋模様も折り込みつつ、辞書編纂に関わる人々の、辞書作りにかかる情熱と辞書編纂に15年もの歳月を費やす苦勞が手に取るようにストレートに伝わってくる作品です。タイトル「舟を編む」とは、編纂する辞書『大渡海』を、「膨大な言葉の海原」を渡る「舟」に喩えてあります。読んでみると自分も辞書編纂に加わっているようなそんな不思議な感覚に襲われる小説で、読了した時に思わず涙がこぼれてくること間違い無しの小説です。週末のクリスマスの夜に読んでほしい。そんな一冊です。

【作者・三浦しをんについて】1976年、東京生まれ。2000年、『格闘する者に〇』でデビュー。以後、『月魚』『秘密の花園』『私が語りはじめた彼は』『むかしのはなし』など、小説を次々に発表。2006年、『まほろ駅前多田便利軒』で直木賞受賞。他に、小説に『風が強く吹いている』『仏果を得ず』『光』『神去なあなあ日常』など、エッセイに『あやつられ文楽鑑賞』『悶絶スパイラル』『ビロウな話で恐縮です日記』などがある。(参考：本書表紙裏の著者紹介文より)

7 世界遺産を巡る・・・第87回はケベック歴史地区(カナダ)

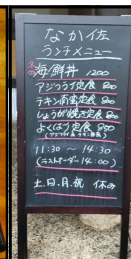
(登録：1985年)

【解説】カナダにある旧市街地、アッパータウンとローワータウンに分かれているケベック歴史地区は、北米唯一の城郭都市として知られています。ケベックは17世紀初めにフランス人の入植者によって築られました。そのためフランス様式の建物が多く残っています。ケベックのセント・ローレンス川の川岸に広がる歴史地区には、北アメリカをめぐる英仏植民地戦争の歴史が刻まれています。16～18世紀のカナダは、フランスとイギリスによる植民地建設の舞台でした。1534年、セント・ローレンス湾一帯の領有を宣言したフランスは、1603年に探検家サミュエル・ド・シャンプランを派遣し、セント・ローレンス川流域の調査を開始。5年後、彼がこの川岸に毛皮交易のために建設したのが、フランス植民地「ヌーヴェル・フランス」の拠点となる街ケベックでした。一方、北アメリカの東海岸で植民地建設を行っていたイギリスは、次第に内陸部に進出し、この地域の覇権をフランスと争うことになります。両国は、先住民諸部族と同盟を結び、彼らの軍事力を利用して各地で争いました。ケベックに対するイギリスの最初の攻撃は1629年に行われました。この時街は一時的に占領され、1690年には30籍隻以上のイギリス艦隊に包囲されます。この結果、フランスは塔を付設した城壁で街を囲い、要塞都市としました。北アメリカでの植民地戦争でイギリスの勝利を決定づけたのが、1759年の戦いです。この年の9月、イギリスは闇夜に乗じてセント・ローレンス川からケベック郊外のアブラハム平原に軍隊を上陸させました。フランスはその陣容を見て驚き、急いで軍勢を繰り出すものの、統率がとれずに敗北しました。わずか15分で決着がついたこの戦いの後、ケベックは陥落しました。4年後、ヨーロッパでの七年戦争が終結し、イギリスは覇者となり、パリ和平条約で、ヌーヴェル・フランスはイギリスに割譲されました。およそ150年で、カナダのフランス植民地時代は幕を閉じました。セント・ローレンス川とサン・シャルル川が合流する川沿いの土地を、先住民のアルゴンキン族は「水の合流点」を意味する「チェベケ」と呼んでいました。これが「ケベック」という名前の由来です。(参考：「世界遺産人気ランキング」より)



8 街角グルメを訪ねて・・・第87回は武雄市の「海鮮丼 なか佐」です。

武雄市北方町にある炉端焼き居酒屋「ひより」が平日のお昼のランチ限定の店として開いている「海鮮丼専門店 なかさ」を紹介します。以前から紹介したいと思っていたお店ですが、平日限定のため中々訪れることができず、今に至りました。この日は評判の「海鮮丼」(税込み1200円)を注文。この日のネタは「はまち・サーモン・生エビ・鯛・赤身・イカ・タコ・ウニ・いくら」



がのっていました。お味噌汁も魚のアラと切身が入っており、こちらも絶品でした。海鮮丼以外にも「アジフライ定食」(800円)・「チキン南蛮定食」(800円)・「しょうが焼き定食」(800円)・「よくばり定食(アジフライ&チキン南蛮)」(850円)のメニューもあり、次回が楽しみです。ランチは11:30～14:30営業です。

9 保護者の皆様へ・・・良いお年をお迎えください。

【英語】◇ one chance in a million ◇ one in a million chance ◇ a rare [golden] opportunity ◇ the chance of a lifetime.

【正解】(1) 典型 (2) 琴線 (3) 潜んで (4) 抽出 (5) 純粋 (6) 曖昧 (7) 慰め
(8) 賢い (9) 秩序 (10) 豪商